

[基準Ⅱ 教育課程と学生支援]

■基準Ⅱの自己点検・評価の概要

本学の卒業認定・学位授与の方針は、教育理念や教育目的・教育目標及び教育課程編成・実施の方針とも関連づけて定めている。教育課程は、教育理念、教育目的、教育目標から導き出される教育課程編成・実施の方針に基づき編成している。

卒業の要件は学則第31条及び第32条で定めており、卒業を認定した者には学則第32条の2により短期大学士の学位を授与するとしている。卒業認定・学位授与の方針を、大学案内や本学ウェブページに掲載するなどして周知を図っている。幼稚園教諭免許や保育士資格に関わる単位は大多数の学生が取得し、学科開設以来、多くの卒業生が幼稚園教諭、保育士、保育教諭、施設職員として採用されている。現在も多くの卒業生が免許・資格を生かして保育者として働いており、こども学科の卒業認定・学位授与の方針は、社会的に通用性があると考えている。

幼稚園教諭と保育士、二つの免許・資格を取得するために、本学では最低 87 単位の取得が必要である。教育課程は、教養科目と専門教育科目を学年進行と修学状況を踏まえて体系的に編成し、各授業科目はシラバスに到達目標を示すなど、それぞれの段階における学習成果や資格取得に向けた学習成果を具体的に明示している。

履修科目は、教養科目、教科科目、教職に関する科目、保育士科目と、四つに大別されている。各科目の授業内容はシラバスに達成目標、評価基準、講義計画（内容・項目）、成績評価の方法、教科書・参考書等を明示し、ウェブサイト上でも広く公開している。成績評価は学則第30条及び「関東短期大学履修及び試験規程」第7条に則り、シラバスに示された成績評価方法に沿って厳正に行っている。

学習成果として、最終的に短期大学士の学位と幼稚園教諭二種免許及び保育士資格を取得することを目指しているが、教科目ごとに定める評価基準に基づいて、学生の理解度を測りながら授業を実施することで、学習成果の確実な獲得に取り組んでいる。

卒業後評価の取り組みについては、毎年度卒業生にアンケート調査を実施し、卒業後の就業継続の状況や勤務上での問題点等の把握に努め、就職の支援体制や具体的な課題、改善点を検討して進路支援に活用している。平成 27 年度からは、課題であった卒業生の就職先へのアンケート調査（教育の在り方について検討するためのアンケート調査）を開始し、卒業生調査や実習巡回指導時の聞き取り調査と併せて、本学の教育課程の見直しや各教員の授業内容や具体的な教育方法等の改善点の把握に努めている。また、10 月の学園祭時に「卒業生の集い」を開催し、専任教員が交代で参加し、仕事の悩みの相談や母校への要望等について聴取し、今後の教育内容や進路支援についての情報として活用している。

毎学期終了時には学生による授業評価アンケートを実施し、その集計結果を授業担当教員に通知しており、各教員はアンケート結果を授業計画や授業改善のために活用するよう求められている。教科目によっては、授業内容が他科目と関連性の高い科目があり、担当教員間で授業内容についての意思の疎通、調整を図っている。特に器楽関連の科目では非常勤講師が多いため、音楽講師会議を開催して授業内容や成績評価の調整を図っている。FD 活動の一貫として、ほとんどの教員が参加するオープンキャ

ンパスの模擬授業を利用して参加教員の授業改善に資する活動としている。

学生への指導体制は1・2年ともクラス担任制をとっており、主にクラス担当教員が修学や学生生活全般にわたる指導や助言を行っているが、学生の指導はクラス担当教員の他に、実習支援室や進路支援室等の教員、学生サービスセンターの職員等全学を挙げて学生の指導・助言を行う体制をとっている。

入学予定者には、高校までに習得すべき基礎的な学力の確認と、継続した学習習慣の維持及び入学後の学習意欲につなげていくことを目的に、入学前の学習課題を課して基礎学力の向上を目指している。基礎学力が不足する学生に対しては、課外の個別学習支援対策講座を設け、学習上の悩みにはクラス担当教員が中心に相談に応じている。授業の進行は、小集団学習や討論など多様な方法を取り入れ、学生が主体的に学びを展開するアクティブラーニングも展開するように工夫している。

学生への経済的支援のため、「関東学園奨学規程」及び「関東学園授業料等減免規程」はあるが、現在本学での適用者はいない。

本学では学生生活を支援するため、年度当初に学長・学科長がクラス担任、各委員会委員、クラブ・愛好会顧問を指名している。委員会等での事務処理については学生サービスセンターで担当し、日常の学生指導・学生相談等は、クラス担任、担当教職員、学生サービスセンターが連携して行っている。学生の意見を聞くための取り組みとしては、学生食堂メニューに学生の要望を取り入れたり、学長行きの投書箱（学長ポスト）を設置して、学生の意見や要望の聴取に努めている。

本学では教職員からなる進路支援室を中心に、クラス担任と連携して学生の就職、進学を含めた進路支援を行っている。

長期的なキャリア形成を目的としたアクティブラーニングを実施し、学生の就職への意識向上を図っている。また、毎日の昼休みを利用したりメディアル講座の開講や、教育実習や保育実習で実習先に就職する学生もいるため、各実習支援室とも連携を図りながら、これまでの幼稚園、保育所、施設との関係性を大切にした指導も行っている。

学生サービスセンター内に進路コーナーを設置し、学生が自由に求人票の閲覧をし、進路支援担当職員に相談をすることができる体制を整えている。

入学者受け入れの方針は、大学案内や学生募集要項に明記し、併せてウェブサイトにも掲載している。また、オープンキャンパスや進学相談会、高校訪問、高校教員を対象とした学校説明会等を通し、受験生及び広く一般に対して周知を図っている。

入学手続き者に対しては、保護者を含めた入学前説明会を12月、2月の2回実施し、本学の教育理念や教育目的、入学後の学習内容（主に免許・資格取得にかかわる授業内容、ピアノ実技等）について説明し、全入学生に対して事前学習として課題を課している。

学生の多様化により、入学後も支援が必要な学生が増加している現状があり、支援・相談も多岐にわたり、学生支援体制としてメンタルヘルスケア支援体制の強化も重要と考えて教職員一丸となって取り組んでいる。

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

[区分 基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している。]

■基準Ⅱ-A-1の自己点検・評価

(a) 現状

卒業認定・学位授与の方針は、本学の教育理念や教育目標及び教育課程編成・実施の方針とも関連づけて下記のとおり定め、大学案内やウェブサイトに掲載して内外に明確に示している。卒業認定・学位授与の方針は、本学の目指す望ましい教育者、保育者としての学習成果にも対応している。

【卒業認定・学位授与の方針】

- ①幅広い教養及び総合的な判断力を有し、社会人としての義務と責任が果たせること。
- ②教育課程・保育課程を理解し、教育・保育実践に必要な専門的知識・技術を修得していること。
- ③身に付けた教育観・保育観に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの成長発達に寄与できること。

卒業の要件は学則第31条及び第32条で定めており、卒業を認定した者には学則第32条2により短期大学士の学位を授与するとしている。

幼稚園教諭免許や保育士資格に関わる単位は大多数の学生が取得し、学科開設以来、多くの卒業生が幼稚園教諭、保育士、保育教諭、施設職員として採用されている。現在も多くの卒業生が免許・資格を生かして保育者として働いており、こども学科の卒業認定・学位授与の方針は、社会的に通用性があると考えている。

(b) 課題

卒業認定・学位授与の方針は、時代の変化や学生の変化などにより、本学が社会に送り出した学生と社会が求める人材像について乖離が生じてくる可能性がないとはいえない。

卒業生の就職先を中心に、望ましい保育者像や現場の求める保育実践力等の調査など実施しているが、今後とも保育者養成校として振り返りの作業がより必要であり、卒業認定・学位授与の方針とともに卒業要件や成績評価基準について定期的な点検を進めていく必要がある。

[区 分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している]

■基準Ⅱ-A-2 の自己点検・評価

(a) 現状

平成 26 年度に関東短期大学教育体系を全教員で検討・編成し、教育理念、教育目的、教育目標から導き出される教育課程編成・実施の方針を明確に示している。

その方針は次のとおりで、入学者受け入れの方針や卒業認定・学位授与の方針及び学習成果とも対応している。

【教育課程編成・実施の方針】

- ①幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、品性ある豊かな人間性を涵養するための基礎教養科目群と専門教育科目群を配置する。
- ②時代の変化に対応する教育・保育に関する理解を深めるために、教育、保育、福祉の基礎知識と理論に関する科目を配置する。
- ③教育者・保育者としての実践力を養うために、演習科目、実習に関わる科目を配置する。
- ④社会や学生の多様なニーズに応じた学びを促すために、五つのフィールド（音楽・表現、心理、スポーツ、栄養・食物、ビジネス）に基づく専門教育科目を配置する。

幼稚園教諭と保育士、二つの免許・資格を取得するためには、本学では最低 87 単位の取得が必要である。履修科目は、教養科目、教科科目、教職に関する科目、保育士科目と、四つに大別している。

各科目の授業内容は、シラバスに授業の到達目標、評価基準、講義計画、成績評価の方法、教科書等、その他を明示している。また、ウェブサイト上でも広く公開している。

なお、学生の多様なニーズに応じた学びに応えるため、教育課程として五つのフィールド科目群を置き、音楽・表現、心理、スポーツ、栄養・食物、ビジネスの各フィールド群から自由に選択できる科目を開講している。更には、各フィールド関連の資格取得の受験も可能であり、幼稚園教諭免許と保育士資格以外に、保育者として実務上有益な複数の資格を取得することができるよう準備している。

成績評価は学則第 30 条及び「関東短期大学履修及び試験規程」第 7 条に則り、シラバスに示された成績評価方法に沿って厳正に行っている。また、国家資格取得にも関わるため、その基準は厳格に定めている。

教員配置については、「短期大学設置基準」の規定を満たす専任教員及び国家資格に関わる教科目に求められる基準を満たす教員を配置し、幼稚園教諭及び保育士養成の教育課程の分野ごとに専任教員を充当することによりバランスのよい教員配置としている。また、短期大学として必要な教養教育に加え、教育者や保育者としての実践的能力や資質を高められるよう、幼稚園・保育所等の現場で長いキャリアを積んだ教員を多く採用している。専任教員又は非常勤教員を問わず意欲的に授業や研究活動、学生指導に取り組んでいる。

教育課程の見直しについては、免許や資格取得に必要な教科目の内容並びに教養科目内容についても、教務検討会議の中で毎年度定期的の実施している。

(b) 課題

子ども子育て新システムなど新しい保育環境に対する理解や保護者支援など、保育者に求められる知識、能力も多様で高度化しているため、まずは社会人としての基礎的な能力向上のためのプログラム検討が必要である。また、非常勤講師を含めた全教員会議を年に2回実施しているが、保育者として必要な知識、技術に対する教員全体の共通認識を持てる工夫と、教員が一致して適用できる評価基準の作成等を検討していくことも課題である。

【区 分 基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確にしている】

■基準Ⅱ-A-3 の自己点検・評価

(a) 現状

本学の入学者受け入れの方針は、関東短期大学教育体系に基づき下記のとおり明確にしている。

【入学者受け入れの方針】

- ①教育者・保育者を目指して日々努力し、成長しようとする人
- ②子どもへの関心が高く、深い愛情が持てる人
- ③他の人との良いコミュニケーションがとれる人

この内容は、卒業認定・学位授与の方針に関連して、社会・地域に貢献できる人間性豊かな専門職である幼稚園教諭・保育士・保育教諭の育成を目指すという、学習成果に対応した方針を示している。

入学者受け入れの方針は、大学案内、学生募集要項、ウェブサイト上にも掲載して公開しているほか、年に10数回実施するオープンキャンパスに参加する高校生や保護者にも明示して周知を図っている。

入学者選抜の方法は学生募集要項で示し、入学者受け入れの方針に基づいて入学試験を実施している。入学者選抜は推薦入学試験、一般入学試験、AO選抜、大学入試センター試験利用と多様な入試方法を取り入れ、社会人入学試験も設けている。

受験者の高校における学習成果の把握と評価は、各入学試験に際して提出する調査書と、推薦入学試験及びAO選抜においては面接結果、一般入学試験においては筆記試験及び面接結果をもとに総合的に判定している。また、受験生が事前に参加したオープンキャンパスや入試相談会における面談記録なども参考にしている。自ら考え能動的に学ぶ態度を身につけ、知識・技術を習得し、社会に貢献しようとする意欲的な学生の受け入れを目指すため、一般入学試験、センター試験利用入学試験以外の入学試験においては、面接の結果を重視して入学者選抜を行っている。

下記に、面接評価に関する評価項目を示す。

【面接評価表】

面接日： 平成 年 月 日 受験者 _____
 指定校推薦・一般推薦・AO・一般 評価者 _____ 印

項目	内容	評価			
1. 面接時印象	<input type="checkbox"/> 礼節さ (挨拶、態度、敬語の使用)	優 良 可			
	<input type="checkbox"/> 清楚さ (頭髪、ピアス、爪等の装飾なし)				
	<input type="checkbox"/> 接触感 (笑顔が自然で応対スムーズ)				
2. 理解的側面	<input type="checkbox"/> 理解力 (理解が早く適切な応答)	優 良 可			
	<input type="checkbox"/> 表現力 (要領よく的確な表現)				
	<input type="checkbox"/> 思考力 (客観的で論理的思考)				
3. 情意的側面	<input type="checkbox"/> 明朗性 (明るく朗らかで活動的)	優 良 可			
	<input type="checkbox"/> 情緒性 (気分変動少なく穏やか)				
	<input type="checkbox"/> 親和性 (暖かく親密な対人関係)				
4. 社会的側面	<input type="checkbox"/> 積極性 (自発的で活気がある)	優 良 可			
	<input type="checkbox"/> 主導性 (主導的で説得力がある)				
	<input type="checkbox"/> 協調性 (集団に調和的で規範性がある)				
5. 興味・意欲	<input type="checkbox"/> 目 標 (将来目標が明確で自覚的)	優 良 可			
	<input type="checkbox"/> 意 欲 (保育への関心や意欲が強い)				
	<input type="checkbox"/> 保育観 (保育への考え方が堅実で妥当)				
6. 文章完成法	<input type="checkbox"/> 形式 (誤・脱字なく、丁寧な文字や文章)	優 良 可			
	<input type="checkbox"/> 生産性 (空欄少なく、紋切り型の文でない)				
	<input type="checkbox"/> 柔軟性 (繰り返しの文意なく多面的な内容)				
<p>【負の特性】 ①印象・・・<input type="checkbox"/> 冷たさや硬さ目立つ <input type="checkbox"/> 応対や意思疎通が困難</p> <p> ②理解・・・<input type="checkbox"/> 理解乏しく要領の悪さ <input type="checkbox"/> 鈍重で応答の悪さ</p> <p> ③情意・・・<input type="checkbox"/> 自己主張強く感情的 <input type="checkbox"/> 陰気で優柔不断</p> <p> ④社会・・・<input type="checkbox"/> 独善的で協調性欠ける <input type="checkbox"/> 内閉的で孤立傾向</p> <p>【特記事項】</p> <p>【調査書】</p> <p>欠席状況 1年.....日、 2年.....日、 3年.....日</p>					
評価基準					総合評価
A 是非入れた い	B 入りたい	C 入れても可	D 入れたくない	E 問題あり不 適	

※該当あれば□にレ点

(b) 課題

入学者受け入れの方針は明確にしているが、社会の変化に対応して見直しが求められる部分がある。また、高等学校で習得すべき学習内容の明示も求められており継続的に見直していく必要がある。

【区 分 基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である】

■基準Ⅱ-A-4の自己点検・評価

(a) 現状

こども学科では、教育理念及び教育目標に基づいて教育課程の編成・実施の方針を示し、学習成果として最終的に短期大学士の学位と幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得することを目指している。

教育体系を検討する際、三つの方針に対応する学習成果を次のように定めている。

【学習成果】

- ①建学の精神を理解し、豊かな人間性と社会性を身に付け、論理的思考力・表現力・共感力を有している。
- ②子どもの成長発達に寄与するための教育・保育に関する豊富な知識と技能・技術を有している。
- ③社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、他者理解及び自己管理の能力を有している。

教育課程は、教養科目と専門教育科目を学年進行と修学状況を踏まえて体系的に編成し、各授業科目はシラバスに到達目標を示すなど、それぞれの段階における学習成果や資格取得に向けた学習成果を具体的に明示している。

各授業の到達すべき目標は、いずれも達成が可能なように授業計画が立てられ、授業計画に示す内容に沿って進める授業の進行過程で学習の習熟度を測るなど、各教員がそれぞれ工夫をして到達目標や学成果を達成可能にしている。

各授業の一部は通年科目で構成しているが、前学期・後学期の学期完結型が多く、学期ごとに定期試験又はレポート提出や実技試験を実施して、到達目標に達しない場合は再試験を行うことで、一定期間内に学習成果が獲得できるように配慮している。

また、教養科目と専門教育科目の学習成果には、最終的には短期大学士の学位と幼稚園教諭二種免許と保育士資格だけではなく、授業科目によっては資格・検定取得が目標設定されているものがある。外部機関による資格や検定を目標とすることで学習への動機づけが高まり、授業の成果として自ら知識・技術の修得度を測ることができる。また、本学では資格、検定の取得は社会人基礎力として具体的な成果にもなることから、学生に奨励している。

幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得するための教育・保育実習科目については、「教育実習要綱」、「保育実習要綱」の中で実習目的、実習目標及び実習方法について具体的に示している。また、教育・保育実習においては、教育実習支援室及び保育実習支援室を設け、個々の学生の到達度に応じて必要な支援を実施している。

講義科目及び演習科目（教育・保育技術を含む）の学習成果の到達度については、各担当教員による評価基準に基づき、定期試験又は課題レポート、ポートフォリオの提出等によって評価し、この評価基準と評価方法は教科目ごとにシラバスに示してい

る。特に、教育・保育技術に関する演習科目では実践力を身につけるため、実技試験を実施している。実技試験の合否判定は、動作項目別に評価項目を設定して評価し、不合格者に対しては、再試験を実施するなど目標達成に向けて指導体制を厚くし、最終的に全員が確実な技術修得ができるよう支援している。このように、教科目ごとに定める評価基準に基づいて、学生の理解度を測りながら授業を実施することで学習成果は達成可能であり、一定期間内に獲得できるようにしている。

学習成果の評価は、「関東短期大学履修及び試験規程」第7条によりA・B・C・Dの4段階としている。各成績は点数化し、A（100～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）として表し、A～Cを合格として単位を認定し、D（59点以下）は不合格で単位を認めていない。また、教育・保育実習の評価は各実習の評価基準に基づいて、実習先の実習指導者と実習担当教員の双方の評価に加え、教員の事前・事後指導の授業における評価、実習中の態度などを点数化して総合的に評価している。

成績評価に基づいて、A=3ポイント、B=2ポイント、C=1ポイント、D=0ポイントとして、量的評価としての総合成績評価（GPA）を算出し、卒業時の学長賞ほかの栄誉賞授与の参考資料としている。

また、学習成果として人間性や社会性の評価の方法については確定していないが、卒業時に行う意識調査項目の結果を活用し、一定の評価としている。

【平成28年度卒業時の意識調査結果】抜粋

<2年間の短大生活を終わるにあたって、感じることは（複数回答可）>

区分	質問項目	回答数・割合 (人・割合)	
ア	社会人として役に立つ知識技能、マナーなどを修得できたと思う	46	20.0%
イ	一人の人間として一段と成長したと思う	48	21.8%
ウ	学問の学び方、学ぶことの楽しさを習得、実感することができた	35	15.9%
エ	円滑な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を養うことができた	40	18.2%
オ	ものごとを論理的に思索し、健全に判断できる見識をもてるようになった	10	4.5%
カ	人の心の痛みのわかる優しさと思いやりのある人間性豊かな人になれた	25	11.4%
キ	短大入学の目的を見失い、無駄な2年間を過ごしてしまった	1	0.5%
ク	2年間を通じ何かをつかもうとしたが結局何も得られなかった	1	0.5%
ケ	自分なりに努力はしたが、成績、就職など不本意な結果となってしまった	2	0.9%

コ	他人に誇れる成果はなかったが、2年間の短大生活を悔いなく過ごした	12	5.5%
	合 計	220	100.0%

<あなたは、すべての授業が終わった今、2年間の授業を受けての感想は>

区分	質 問 項 目	回答数・割合 (人・割合)	
ア	論理的思考力、判断力、表現力等が身につき自分が一段と成長したように思う	45	43.3%
イ	将来に役に立つ知識及び技能を修得でき、社会人となる上での大きな自信となる	26	25.0%
ウ	短大生としての2年間を楽しみながら勉強をすることができたと思う	29	27.9%
エ	授業内容、分かり易さ、授業の進め方等を総合すると不満な点が多かった	1	1.0%
オ	目的意識を堅持できず2年間の勉強で得るところのものは少なかった	3	2.9%
	合 計	104	100.0%

(b) 課題

学習の量的評価に関しては、GPAの算出で測定可能であるが、評価の基準について教員間での差が生じないよう今後も検討が必要である。加えて、どのように質的評価を行うか、学習成果で求める人間性、社会性などを測定する有効なツールによる評価基準を見出すことは今後の課題である。

[区 分 基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている]

■基準Ⅱ-A-5の自己点検・評価

(a) 現状

本学は地理的条件から群馬県のみならず、埼玉県、栃木県、茨城県等の広い地域からのからの進学者が多い。学生の多くは出身地での就職を希望し、実習先も出身地の幼稚園、保育所、認定こども園、及び施設を希望することが多い。実習中に、実習先から採用試験を受けるよう要請されたり、卒業後の採用を約束されたりする学生もあり、就職につながる学生もいる。

進路先からの評価は、卒業生を採用した在学生の実習先への巡回指導の際に、卒業生の知識・技術内容や資質に関して聴取している。また、本学の教育内容や方法の改善等についての意見や助言を得て、養成教育の改善に資することもある。幼稚園や保育所等からの求人の際に、本学の採用枠を聴取する際の反応や実際の採用数から、本学に対する評価を判断することもある。

毎年度卒業生にアンケートを実施し、卒業後の就業継続の状況や勤務上での問題点等を調査しており、就職の支援体制や具体的な課題、改善点を検討し進路支援に活用している。

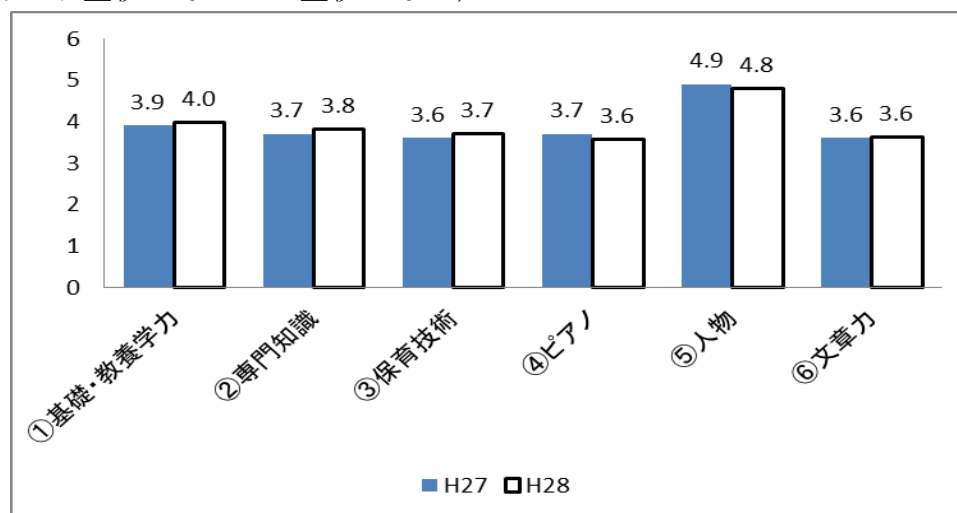
平成 27 年度からは課題であった卒業生の就職先へのアンケート調査（教育の在り方について検討するためのアンケート調査）を開始し、卒業生調査と合わせて毎年 11 月に実施している。このアンケート調査と先の実習巡回時の聞き取り調査とを併せて、本学の教育課程の見直しや各教員の授業内容や具体的な教育方法等の改善点の把握に努めている。

【教育の在り方についてのアンケート調査結果】

- 1 対象：平成 28 年 3 月の卒業生内定先（幼稚園、認定こども園、保育所）55 園
- 2 回答率：69% 38/55（平成 27 年度 80% 48/60）

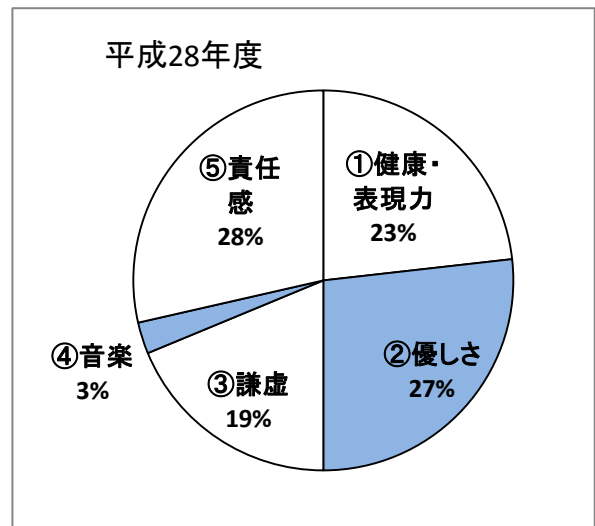
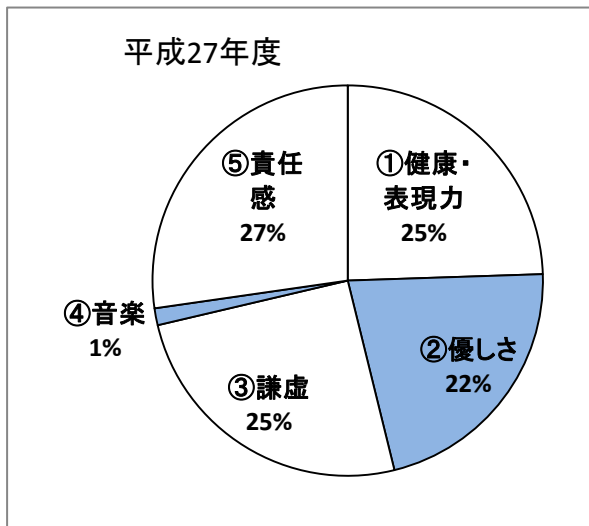
<質問 1：採用にあたり重視する点について>

- (5.重視する 4.どちらかといえば重視する 3.どちらともいえない
2.あまり重視しない 1.重視しない)



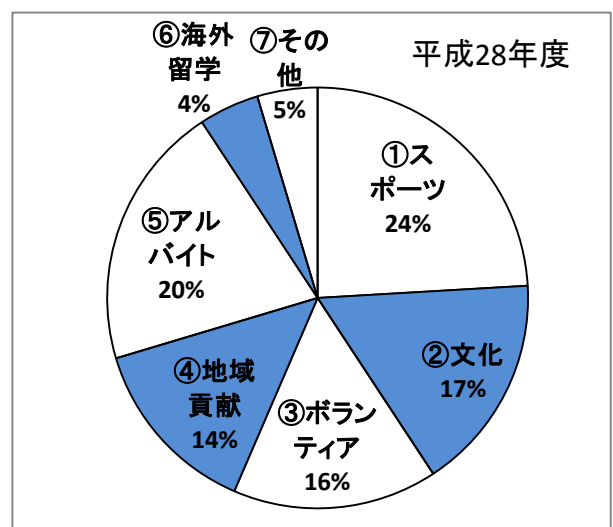
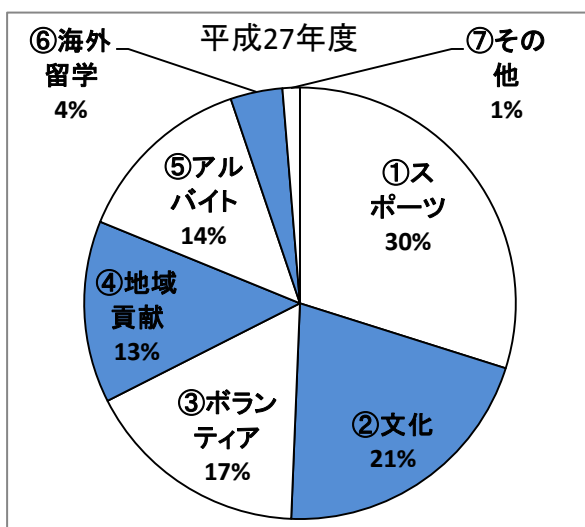
<質問 2：幼稚園教諭、保育士、保育教諭として最も重要とされるもの 3 つ>

- ①健康で表現力豊か
- ②人と自然に対する優しさ、思いやりがある
- ③謙虚で協調性ある反面、積極性にも優れている
- ④音楽や楽器、リズムを豊かに表現できる
- ⑤教育・保育者としての自覚と責任を理解している



<質問 3：学生生活を通じた人間形成について、どのような分野で経験することが望ましいと思いますか]（複数回答可）>

- ①部活・サークル活動（スポーツ系）
- ②部活・サークル活動（文化系）
- ③ボランティア活動
- ④地域貢献活動
- ⑤アルバイト
- ⑥海外留学
- ⑦その他



また、こども研究センターの活動の一環として、卒業生に対して平成 27 年度から 10 月の学園祭時に「卒業生の集い」を開催している。卒業後 3 年までの卒業生には全員に案内を出し、卒業生が集まれる部屋を用意して自由に歓談できるようにしている。その際、専任教員が交代で参加し、仕事の悩みの相談や母校への要望等について聴取し、今後の教育内容や進路支援についての貴重な情報として活用している。

本学は担任制をとっていること、研究室がオープンスペースになっていること等から伝統的に学生と教員の距離が近く、卒業後も比較的頻繁に卒業生が訪れ、仕事の悩み相談や再就職の相談を行っている。そのような関わりの中から、保育者として必要な資質の向上についての教育内容や進路支援のあり方等の検討も行っている。

(b) 課題

卒業生調査について、特に平成 27 年度は全体的に回答率が低く、加えて就職先を変更していない学生からの回答が多い傾向がみられる。真に困難を感じている卒業生にどのような支援が重要か調査の内容を検討し、現在実施している就職先へのアンケート調査及び聞き取り調査の結果を教員間で共有し、FD 活動等を通して検討するなど活用していきたい。

今後、保育制度や幼稚園教育要領・保育所保育指針の変更等、社会状況の変化に備えて卒業生へのリカレント教育についても検討課題である。

■テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の改善計画

卒業認定・学位授与の方針は、時代の変化や学生の変化などにより、本学が社会に送り出した卒業生と、社会が求める人材像について乖離が生じてくる可能性がないとはいえない。今後は卒業生の就職先を中心に、望ましい保育者像や現場の求める保育実践力等の調査など、乖離のない保育者養成校として振り返りの作業がより必要であり、卒業認定・学位授与の方針とともに、卒業要件や成績評価基準について定期的な点検を進めていきたい。

子ども子育て新システムなど、新しい保育環境に対する理解や保護者支援など、保育者に求められる知識、能力も多様で高度化しているため、まずは社会人としての基礎的な能力向上のためのプログラム検討が必要である。また、非常勤講師を含めた全教員会を年に2回実施しているが、保育者として必要な知識、技術に対する教員全体が共通認識を持てる工夫と、教員が一致して適用できる評価基準の作成等を検討していきたい。

入学者受け入れの方針は、教育理念や教育目標と深く関連しているが、社会の変化に対応して見直し求められる部分もあり、継続的に見直していく必要がある。

学習の量的評価に関しては、GPA の算出で測定可能であるが、教員間での差が生じる課題に対しては評価の基準について継続的に検討していきたい。また、どのように質的評価を行うか、学習成果で求める人間性、社会性などを測定する有効なツールを検討していきたい。

卒業生調査について、全体的に回答率が低く、また、就職先へのアンケート調査も

質問にあいまいな表現等がみられ、本学の教育についての評価や卒業生の問題点等がより把握できるように、今後はアンケート内容を見直しながら教育課程の編成や進路支援に活用していきたい。

今後、保育制度や社会状況の変化に備えて卒業生へのリカレント教育についても実施に向けて検討していきたい。

- 【提出資料】
- 資料 2 大学案内（平成 28 年度）
 - 資料 5 関東短期大学教育概念図
 - 資料 8 学生募集要項（入学願書含む）（平成 28 年度）
 - 資料 9 授業科目担当者一覧表（平成 28 年度）
 - 資料 10 時間割表（平成 28 年度）
 - 資料 11 シラバス（平成 28 年度）

- 【備付資料】
- 資料 2 単位認定の状況表（平成 28 年度卒業生）
 - 資料 3 GPA 一覧表（平成 28 年度）
 - 資料 4 資格取得関連資料（平成 28 年度）

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

[区分 基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している]

■基準Ⅱ-B-1の自己点検・評価

(a) 現状

教員は、シラバスに示してある成績評価の基準により学生の成績を評価し、卒業認定・学位授与の方針に対応する学習成果を判断している。特に1・2年次生ともにクラス担任は、全学生の学期ごとの成績を把握しており、学生の保護者にも成績表を通知して学習の成果を共有している。

毎学期終了時には学生による授業評価アンケートを実施し、その集計結果を授業担当教員に通知しており、各教員はアンケート結果を授業計画や授業改善のために活用するよう求められている。

教科目によっては、授業内容が他科目と関連性の高い科目があり、担当教員間で授業内容についての意思疎通、調整を図っている。特に器楽関連の科目では、非常勤講師が多いため、年2回の音楽講師会議を開催して授業内容や成績評価基準の調整を図っている。

FD活動の一つとして、ほとんどの教員が参加するオープンキャンパスの模擬授業を利用している。年に10数回実施するオープンキャンパスでは、年間計画で授業担当教員が交代で模擬授業を行い、参加教員の授業改善に資する活動としている。また、新任教員や経験の浅い教員は、学生への履修説明や幼稚園教員免許及び保育士資格取得のためのガイダンスに学生と共に参加し、2年間の学修、学生生活について理解を深めている。

2年間の担任教員を中心としながらも、本学では小規模校の利点である教職員間の意思疎通が図りやすく、入学から卒業までの学生支援に関して共通認識が図られている。

事務部門として、学生サービスセンターが学生生活全般に関わり、事務職員は学期ごとに行われる授業評価アンケートや成績評価の集計を行い、学生の学習成果を把握している。また、毎週1回、全職員会議を開催し、業務予定の確認、学内の状況やセンター運営全般、学生の動向等を把握して業務の適切な運営に努めている。

SDとして、職員は大学運営に関わる学外研修に努めて参加しており、教務全般や学生支援、進路支援に活用している。

図書館は、学生の学習支援を目的とし、新入学時に図書館利用に関するガイダンスを実施し、図書館の基本的な使い方から蔵書検索、文献検索の方法等について案内することで学生の学習意欲を引き出すよう努めている。新着図書の紹介を掲示とウェブサイトで行っており、学生からのリクエストにも積極的に応じ、利用サービスの向上に努めている。また、教育実習や保育実習の前には貸出冊数を増やしたり、貸出期間を延長する等学生の实習に成果が上がるような支援をしている。

本学にはコンピュータ教室が2教室あり、66台のコンピュータを設置している。

コンピュータの授業では、「Windows パソコンを利用し、ビジネスアプリケーション操作技術を修得するとともに、ネットワーク、インターネット活用による総合的な情報リテラシー能力を身に付ける」ことを目標として、1年次の必修科目としている。

教員が指導に当たっているほか、学生数名がアシスタントとして補助している。コンピュータ教室のうちの1室は常に学生の自習用に開放し、レポート作成や情報検索等が行えるようにしている。学内LANも整備し、レポート等の課題は学生がパソコン上で提出することができるようにしている。

本学では、効果的な学習に資するため5教室にマルチメディア設備を有している。平成26度は2教室(211・212教室)でICT機器の整備及び1教室(305教室)の大型のスクリーン変更に続いて、平成28年度は1教室(213教室)のICT機器の整備を行い、教育的環境が改善し授業に有効活用され、学生の学習成果の獲得につながっている。

(b) 課題

学習成果の状況を適切に把握するために行われている従来の「授業評価アンケート」を踏まえてFDに反映させ、教育内容の見直しや授業改善を個々の教員に課すだけでなく、学科として組織的に課題改善に取り組んでいくことが必要である。

学生にわかりやすい授業をするために、また学生の主体的な学習活動を支援するためにさらなるIT機器の施設設備の充実とその有効活用が必要である。

【区 分 基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている】

■基準Ⅱ-B-2の自己点検・評価

(a) 現状

新年度開始時に実施するオリエンテーションにおいて、学科の教員並びに学生サービスセンター職員が、「学生便覧」や「免許・保育士資格取得所要単位」の一覧表をもとに、単位認定や履修に関する事項、取得可能資格等についての説明及び時間割の作成指導を丁寧に行っている。特に、新入生は高校から短期大学へとシステムが異なる学校へ進むこと、全学生が原則的に幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得することから、授業の形態（講義系・演習系・実技系）や卒業に向けての履修の仕方、資格に合わせた科目の選択について、十分に時間を取り、具体的な説明を行っている。また、1年生には入学直後に実施する1泊2日の校外研修の中で、学生便覧をもとに学生生活全般の諸注意、学内規程の説明、履修登録に向けた個別的指導を行っている。

さらに2年生に対しては、1年次の成績表をもとに、今後の履修について個別に指導し、確実に卒業ができるように支援している。また、各授業のオリエンテーションでは、その授業の特性やねらいと併せて、具体的な説明を行っている。このようにして、学生が主体的に獲得すべき学習成果をイメージできる場面を設けている。

学生への指導体制は1・2年ともクラス担任制をとっている。クラス担当教員は、毎週水曜日に実施する「フレッシュマン・セミナー」「ソフォモア・セミナー」の時間での指導・助言はもとより、休み時間や放課後等においても学習や日常の学校生活全般にわたる悩みや相談に応じている。また、担任教員の他に、実習支援室や進路支援室の教員、授業を担当する全教員、学生サービスセンター職員等全学を挙げて指導・助言を行う体制をとっている。

学習支援のための印刷物として、「学生便覧」や「免許・保育士資格取得所要単位」の一覧表を学生に配付している。また、「シラバス」についてはウェブサイト上で閲覧でき、履修登録もウェブ上で行うことができる。ウェブ履修登録は、登録期間中であれば何度も修正可能となり、履修漏れやその他の手続きの不備に対して迅速に対応することができるようになっている。

入学予定者には、高校までに習得すべき基礎的な学力の確認と、継続した学習習慣の維持及び入学後の学習意欲につなげていくことを目的に、入学前の学習課題を課している。また、教養科目の「日本語表現」を1年次・2年次に設定して必修科目としており、漢字の読み・書きと文章作成を中心とした日本語表現学習を行い、基礎学力の向上を目指している。基礎学力が不足する学生に対しては、週に2回、課外の個別学習支援対策講座を設け、基礎学力向上のための補習を行っている。それに加えて日常的に個別指導や試験対策指導を行うようにしている。

学習上の悩みには、前述したクラス担当教員を中心に相談に応じているが、教職員間で日常的に情報を交換するよう努めながら学習支援を行っている。また、だれでも自由に相談できる体制として、各教員が週に2コマのオフィスアワーを設けて学生支援を行っている。

授業の進行は、小集団学習や討論など多様な方法を取り入れ、学生が主体的に学び

を展開するアクティブラーニングも展開するように工夫している。この工夫により、学びを学生個人のものとして閉じられることのないよう、小集団の中で確かめたり再構成したりして、進度の早い学生は学びをより深化・統合できる機会を多く設け、進度の遅い学生には学習方法の改善を図る工夫をしている。

連続して 2 週の欠席があるなど、授業欠席の多い学生に対しては授業担当教員から学生情報カード（イエローカード）をクラス担任に提出して、早期の学習支援に結び付けられるような仕組みをつくり、非常勤講師を含めた全教員に周知して共通理解を図っている。

通信による教育、留学生の受け入れ及び留学生の派遣は行っていない。

（b）課題

学習成果を数値化（GPA）し、それを学生への適切な学習指導に活かしていくことを目指しているが、数値化が難しい芸術（表現）系統の科目については、成績評価の方法や手順について更なる検討が必要である。これらを学生指導に反映させるための構造化について今後さらに考えていきたい。

学力不足の学生、学習成果の獲得が不十分な学生には、クラス担当教員が中心となり科目担当教員と連携しながら個別指導を行っているが、組織的な支援のあり方を検討し、学生に対する効果的な指導法を確立していきたい。

優秀な学生のみならず、すべての学生において満足できる授業へと改善するために、今以上の工夫が求められる。具体的には、FD 活動として学生の授業評価の積極的活用や、教員が授業を参観し合う機会の増加、研究会の実施による具体的な授業改善の視点の描き出しなどが考えられる。学習の習熟度と併せた指導についても模索中である。

[区 分 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている]

■基準Ⅱ-B-3の自己点検・評価

(a)現状

学生への経済的支援のため、「関東学園奨学規程」及び「関東学園授業料等減免規程」はあるが、現在は本学での適用者はいない。関東学園奨学規程第 2 条に基づく「災害時の被災学生・生徒に対する奨学支援細則」では、東日本大震災の被災学生への適用があった。

本学では学生生活を支援するため、年度当初に学長・学科長がクラス担任、各委員会委員、クラブ・愛好会顧問を指名している。委員会等での事務処理については学生サービスセンターで担当し、日常の学生指導・学生相談等は、クラス担任、担当教員、学生サービスセンター職員が連携して行っている。

主な委員会等としては、教務検討会議、図書委員会、学術図書刊行担当、FD 委員会、進路支援担当、実習支援担当、学生指導担当、広報推進会議等を組織している。

そのほか、各種学校行事、学納金・奨学金、健康・生活管理、各種届出・申請、学友会・クラブ・愛好会担当等により教職員が連携しながら支援を行っている。

学友会は全学生によって構成され、総会で承認された事業計画や予算に基づいて活動を行っている。本部（正副会長、総務、会計、会計監査、広報）と、本部の推薦・指名による各実行委員会の正・副委員長が協力して行事等の運営にあっている。

学友会の主な行事としては、アザリア祭（学園祭）、校内スポーツ大会、七夕祭り、クリスマス会、卒業祝賀パーティーなどがある。

各実行委員会には、学生指導担当（顧問）、学生サービスセンター職員が年間活動方針、計画についてアドバイスをしている。

クラブ・愛好会活動、学友会活動についても、教職員の担当（顧問）並びに学生サービスセンター職員が担当し、学生が主体的に参画し活動できるように、指導・支援にあっている。

学生食堂はスチューデントホールに隣接して設置しており、飲料やアイスクリーム、菓子パンの自動販売機を置き、学生のキャンパス・ライフに配慮している。

学生のための寮は設置していないが、近隣には学生対象の低廉なアパートが多数存在し、希望学生には紹介をしている。最寄りの鉄道駅から本学までは徒歩 15 分程度であり、また、通学に自家用車を利用する学生が 6 割と多く、無料の学生駐車場を開放している。通学バスは運行していない。

学生の意見を聞くための取り組みとしては、学生食堂メニューの要望を取り入れたり、学長行きの投書箱（学長ポスト）を設置して、学生の意見や要望の聴取に努めている。

本学は幼稚園教諭や保育士等の対人援助職の養成校であるため、身体障がいをもつ学生の入学希望はあまりないが、校内の一部にスロープを設けたり手すりをつけて身体障がいに配慮したトイレを設置したりしている。過去には、中等度の聴力障がいを有する学生の入学例がある。

学生のボランティア活動や地域貢献活動などは、将来の進路にも有益であるととも

に、学習成果としての人間性や社会性の涵養及び卒業生の内定先からの「教育の在り方についてのアンケート結果」等からも期待される重要な活動であり、大学として積極的に参加するよう奨励している。学生の社会的活動に対する社会の評価は高いものがあり、今後も推奨していくことが必要である。

(b)課題

学生の多様化により支援が必要な学生が増加しており、指導・相談も多岐にわたるため、専門知識を持った教員の配置や教職員の資格取得などの資質向上が必要であるとともに、物的資源として環境整備をしていく必要もある。また、学生指導担当、進路指導担当、学生相談室、保健室、学生サービスセンター職員の更なる連携強化が求められる。臨床心理士資格を有する2名の教員が、必要に応じて継続的な面接を行う体制をとっている。早期に学生の異変を発見するには、クラス担任、授業担当教員及び保護者からの情報収集、教職員の情報共有が必要である。

ボランティア活動、地域貢献活動など社会の評価は高いが、授業時数の確保のため週末に補講を実施している状況では、授業出席数との関係で参加できないことも多く、今後の検討課題といえる。多くの学生が自主的に参加することが可能となるように、教員と担当部署が連携して参加しやすい体制の整備を行っていききたい。

【区 分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている】

■基準Ⅱ-B-4の自己点検・評価

(a) 現状

本学では教職員からなる進路支援室を中心に、クラス担任と連携して学生の就職、進学を含めた進路支援を行っている。

具体的には、1年次後期に「キャリアサポートⅠ」、2年次前期に「キャリアサポートⅡ」という授業を選択科目として設け、長期的なキャリア形成を目的としたアクティブラーニングを実施し、学生の就職への意識向上を図っている。また、毎日の昼休みを利用したリメディアル講座の開講、フレッシュマンセミナー・ソフォモアセミナーでの一般教養問題への取り組みなど、基礎学力向上のための支援を継続的に行っている。さらに、週に2回、希望者を対象にした課外の個別学習支援対策講座を設け、専任教員と職員が連携しながら、公務員試験対策、進路相談、履歴書作成の指導、模擬面接、編入学支援など、学生の希望や求人先の実情を考慮した指導を行っている。夏季休業中には「群馬県私立幼稚園統一試験」に向けた試験対策講座（60分×6講座）も実施し、統一試験後にはアンケート調査を行い、学生の実態の把握と改善を図っている。

【平成28年度後期進路支援 リメディアル講座（昼休み）】（一部抜粋）

月 日	曜日	テーマ	担当教員
10月11日	火	英語：いろいろな動詞	原田
10月12日	水	社会：日本史①	松尾
10月13日	木	国語：敬語①	中野
10月14日	金	理科：植物①	橋本
10月17日	月	数学：式の値	松尾
10月18日	火	英語：過去形	原田
10月19日	水	社会：地理（日本）①	中野
10月20日	木	国語：漢字の読み書き①	中野
10月25日	火	英語：現在進行形・過去進行形	原田
10月26日	水	社会：公民（政治）①	松尾
10月27日	木	国語：文学史（日本）①	中野
10月28日	金	理科：化学式	亀岡

※上記のように、毎日昼休み科目ごとに1月末まで実施した。

【平成 28 年度後期 進路支援 5 時限自習会】（一部抜粋）

月 日	曜日	担当教員
10 月 14 日	金	橋本
10 月 17 日	月	岩崎
10 月 28 日	金	森
10 月 31 日	月	武井
11 月 4 日	金	布施
11 月 7 日	月	中山
11 月 11 日	金	塚越
11 月 14 日	月	吉田
11 月 18 日	金	亀岡
11 月 21 日	月	岩崎
11 月 25 日	金	橋本
12 月 5 日	月	武井

※上記のように、毎週（月・金）の課外に 1 月末まで実施した。

本学では幼稚園での教育実習や保育所実習で実習先に就職する学生もいるため、進路支援室では各実習支援室とも連携を図りながら、これまでの幼稚園、保育所、施設との関係性を大切にしたい指導も行っている。

1 年次の 3 月には就職希望調査を行い、学生から提出された調査書をもとに、クラス担任と就職担当職員が連携し、学生の適性を見ながら希望に沿った情報提供や就職指導を行っている。また、クラス担任は個別面談等を通して、将来を見据えた進路指導を 1 年次から行い、2 年次には全教員がオフィスアワー等の時間を活用して、個別に模擬面接を行うなど、就職試験対策に力を入れている。さらに、年 1 回、保護者対象の教育懇談会を実施し、クラス担任と保護者が生活面、学習面、進路についての懇談を行っている。

学生への情報提供としては、学生サービスセンター内に進路コーナーを設置し、学生が自由に求人票の閲覧をしたり、進路支援担当職員に相談をすることができる体制を整えている。また、インターネット検索用のパソコンを開放する等、学生が主体的に情報を集めることができるよう配慮している。さらに、平成 28 年度は学内での合同就職説明会を 6 月に開催した。過去 2 年間、本学の卒業生が就職している近隣（群馬県・埼玉県・栃木県・茨城県内）の幼稚園、保育所、認定こども園、施設 47 ヶ所から 88 名を招聘し、学生が直接就職に関する情報を得られる機会を設けた。

平成 28 年度の求人件数は幼稚園、保育所、一般企業等 1,042 件であった。卒業生 120 名中 118 名が就職希望であり、そのうち 117 名が就職で、就職決定率は 99.2%であった。また、1 名は進学を希望し、希望の 4 年制大学 3 年次へ編入学した。

平成 28 年度卒業生の進路状況は次のとおりである。

【平成 28 年度卒業生の進路状況】

平成 29 年 3 月 31 日現在

		計 (人)
卒業者数		120
進路 状況	就職希望者	118
	就職内定者	117
	就職未定者	1
	大学編入希望者	1
	大学編入合格者	1
	就職・編入学以外 (アルバイト・家事等)	2

【採用区分と職業別一覧】

(人)

保育教諭		幼稚園教諭	保育士	施設	公務員	一般企業	計
公立	私立	私立	私立				
1	20	10	67	11	1	7	117

学生の進路決定状況を把握するために、就職内定者には「進路決定届」、「就職活動内容報告書」を進路支援室に提出させており、就職試験の内容等を把握し、その結果を今後の学生への進路支援に活用できるようにしている。

就職のための資格取得としては、幼稚園教諭二種免許、保育士資格に加え、「音楽・表現」、「心理」、「スポーツ」、「栄養・食物」、「ビジネス」の5つのフィールド科目の中から自由を選択し、自分の好きなこと、得意なこと生かした資格取得ができるよう教育課程を用意し、社会や学生の多様なニーズに応じた学びができるようにしている。

平成 29 年度は、近年、保育現場で求められている資格取得を視野に入れた新たなフィールド「福祉」「子ども環境」を加え、7つのフィールドに再編成する計画である。

新たな資格として「小児救命救急法」「子ども環境管理士」「おもちゃインストラクター」の取得を導入する予定である。

平成 28 年度のフィールド科目に関わる資格取得状況は次のとおりである。

【フィールド科目に関わる資格取得状況】

資格	取得者 (人)
リトミック 2 級指導資格	83
児童厚生 2 級指導員	0
ピアヘルパー	17
レクリエーションインストラクター	53
ベビーシッター	89
幼児体育指導者	0
合計	242

(b) 課題

昨今の保育業界の人材不足や認定こども園の増加等の影響を受け、幼稚園、保育所からの求人件数は増加しており、企業等も合わせると学生一人当たり平均 8.6 件の求人があった。しかしながら、就職意志のない学生、意志はあっても動き出さない学生もおり、2 年間の中でのさらなるキャリア教育の充実と、学生一人ひとりに応じた個別指導が今後ますます必要と思われる。

さらに、社会人としての一般常識やマナー、コミュニケーション能力等が不十分な学生も少なくなく、基礎学力の向上と併せて保育現場からも求められている人間性や社会性の涵養やマナー教育、コミュニケーション能力の向上を図るプログラム等も取り入れる必要がある。

[区分 基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している。]

■基準Ⅱ-B-5の自己点検・評価

(a) 現状

入学者受け入れの方針は、大学案内や学生募集要項に明記し、併せてウェブサイトにも掲載している。また、オープンキャンパスや進学相談会、高校訪問、高校教員を対象とした学校説明会等を通し、受験生及び広く社会に対して周知を図っている。

入学試験に関する外部からの問い合わせ先は広報室が窓口となっているが、その内容に応じて担当を分けている。具体的には、オープンキャンパス、進学説明会、学校見学、入学試験等の問い合わせについては広報室が、学生生活、奨学金やアパート等の問い合わせについては学生サービスセンターが対応している。また、オープンキャンパスや学校説明会では、参加生徒が具体的な学科の内容や学生生活等について理解を深められるよう模擬授業体験を実施し、入学試験、奨学金、特待生制度等について個別相談に応じている。その際は、広報室のみならず教職員全体で受験生からの質問に応じる体制を取っている。

入学者選抜は推薦入学試験、AO 選抜方式、一般入学試験、大学入試センター試験利用、社会人入学試験、キャリアアップ入学試験があり、現役生から社会人までの幅広い層に向けて受験の機会の公平性を期すために多様な選抜方法を設けている。

推薦入学試験においては、指定校推薦と公募推薦の 2 種類の区分を設けている。合否判定については、入試区分に応じた選考方法により入学を許可する者の候補者名簿を作成した後、学長が委任する入試判定委員会の意見を徴し、学長が合否決定したのち教授会で報告することとしており、いずれも公正かつ正確に実施している。

また、推薦、AO 方式、一般、センター試験利用の 4 つの入学試験では特待生制度を実施している。これは、入学金の全額免除又は一部減免によって、入学生の学習意欲に応える制度である。選考は高校在学中の評定平均値、若しくは入学試験の成績、高校在学中の課外活動や資格取得状況も選考の対象とした基準を設け、教授会の審議を経て該当者を決定している。

入学手続き者に対しては、保護者を含めた入学前説明会を 12 月、2 月の 2 回実施している。本学の教育理念や教育目的、入学後の学習内容（主に免許・資格取得にかかわる授業内容、ピアノ実技等）について説明するとともに、入学後の学習を円滑に行うため、全入学予定者に対して事前学習として入学までの課題を課している。その内容は、実習日誌や指導案等を作成する上で必要な保育用語に関する漢字へ習熟させること、子どもに関するニュース調査とその感想を週次で纏めさせる課題としている。

さらに、ピアノ曲課題としてレベルに応じた楽譜を配付し、入学までの間にピアノに慣れさせるとともに、家庭にピアノがない入学者には本学のピアノホールの開放及び教員による入学前レッスンを受けられるようにしている。

【平成 28 年度 入学前課題】

[入学前の課題]

1. 入学に向けて、自身が取り組むべきだと考える課題
2. 保育者・教育者に必要な漢字(①書き取り・②読み)
3. 子どもを取り巻く現代社会の問題に関する調べ学習と今週の振り返り
 - ・子どもに関する今週のニュース調べ
 - ・今週の振り返り
4. 入学に向けた決意

1. 入学に向けて、自身が取り組むべきだと考える課題

関東短期大学への合格おめでとうございます。みなさんは、保育園や幼稚園、こども園で働く先生、もしくは福祉施設で働く職員になるなど、それぞれの目標を胸に、関東短期大学への進学を決意されたことと思います。教職員一同、皆さんの夢が実現できるよう精一杯支援していきたいと考えています。しかし、2年間という時間は短く、あっという間に過ぎていってしまいます。皆さんが今胸に抱いている目標に近づくためには、入学前の「今」から少しずつ準備を始めていくことが大切です。入学前に課された課題以外にも、現時点で、あなたの夢の実現の妨げになるかもしれない問題や課題についても、改善に取り組んでほしいと思います。

①夢を実現するために今自分に足りないと思うところ、改善が必要だと思うところ

②上記の課題を改善するために、入学までの間にできること

2 漢字(①書き取り・②読み) 省略

3 「子どもを取り巻く現代社会の問題に関する調べ学習と今週の振り返り」の課題

子どもに関する今週のニュース (12月5日(月)～12月11日(日))

■報道年月日

_____年 _____月 _____日 _____曜日

■媒体名(ニュースが掲載されていたメディア名)

■ニュースのタイトル・見出し

■ニュースの要約(そのニュースが一番伝えたいことを簡単にまとめる)

■ そのニュースを読んで(聞いて)感じたこと、考えたこと

今週を振り返って

記入日 _____月 _____日

入学後は、学内でのガイダンスを2日間、校外研修を2日間、計4日間でオリエンテーションを実施している。学内ガイダンスでは学科長が建学の精神や教育理念、教育目的についての講話を行い、クラス別のホームルームにおいて担任教員が履修の登録方法や学生生活における諸注意、図書館の利用方法、学内の諸手続きについての指導を行っている。校外研修は、2年間の学修の構築を図り、良き友人関係を築くことを目的として行われており、学長、学科長の講話や、教育・保育実習支援室及び器楽担当教員によって2年間の学習内容や学習目標についての説明を行っている。また、この研修には2年生もアシスタントとして参加し、担任教員の補佐を行うとともに、履修登録及び学習上の留意点の説明や学生生活に関する助言をし、新入生がより良い学生生活を送れるよう、教員、学生アシスタントが一丸となって支援を行っている。

(b) 課題

保育者不足が社会問題となっている中、養成校には保育現場において即戦力となる保育者の育成が求められている。そのために、保育者には保育技術のみならず幅広い知識、高いコミュニケーション能力が必要となる。それらを踏まえ、入試形態については、学生数確保のために現状の入試形態は維持していくが、基礎学力の低下を懸念することから、特にAO選抜では、受験者のコミュニケーション力だけでなく、何らかの形で基礎学力を測る方法が必要であり、今後は入試担当と広報推進会議で新たな方策を検討する必要がある。

■テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の改善計画

学習成果の状況を適切に把握するために行われている従来の「授業評価アンケート」を踏まえて、学科として教育内容の見直しや授業改善に組織的に取り組んでいく。

学生にわかりやすい授業をするために、また学生の主体的な学習活動を支援するためにさらなる IT 機器の施設設備の充実とその有効活用を進める。

学習成果を数値化（GPA）し、それを学生への適切な学習指導に活かしていくことを目指しているが、授業改善及び学生指導に反映させるための方策を今後さらに考えていきたい。

学習成果の獲得が不十分な学生には、クラス担当教員が中心となり科目担当教員と連携しながら個別指導を行っているが、組織的な支援のあり方を検討し、学生に対する効果的な指導法を確立していきたい。

優秀な学生のみならず、すべての学生において満足できる授業へと改善するために、今以上の工夫が求められる。具体的には、FD 活動として学生の授業評価の積極的活用や、教員が授業を参観し合う機会の増加、研究会の実施による具体的な授業改善等積極的に進めていきたい。

学生の多様化により支援が必要な学生が増加しており、指導・相談も多岐にわたるため、担任、各教科担当、学生指導担当、進路指導担当、学生サービスセンター職員の更なる連携強化を図り、早期に学生の異変を発見するとともに、適切な支援・指導に努めたい。

保育者不足が社会問題となっている中、養成校には保育現場において即戦力となる保育者の育成が求められている。そのために、保育者には保育技術のみならず幅広い知識、高いコミュニケーション能力が必要となる。2年間のキャリア教育の充実を図り社会の要請に的確な対応をするとともに学生一人一人に適切に対応していきたい。

- 【提出資料】
- 資料 1 学生便覧（平成 28 年度）
 - 資料 2 大学案内（平成 28・29 年度）
 - 資料 8 学生募集要項（入学願書含む）（平成 28・29 年度）
 - 資料 12 オリエンテーション配付資料（平成 28 年度）

- 【備付資料】
- 資料 3 GPA 一覧表
 - 資料 5 学生生活に関する満足度調査結果（平成 28 年度）
 - 資料 6 教育の在り方についてのアンケート結果
 - 資料 7 卒業者の進路状況調査結果
 - 資料 8 入学前説明会配付資料
 - 資料 9 入学までの家庭学習課題
 - 資料 10 新入生オリエンテーション資料
 - 資料 11 在学生ガイダンス資料（平成 28 年度）
 - 資料 12 個人調査票
 - 資料 13 就職調査書

- 資料 14 卒業生進路状況
- 資料 15 授業評価アンケート用紙
- 資料 16 授業評価アンケート結果
- 資料 17 FD 活動記録
- 資料 18 SD 活動記録

■ 基準Ⅱ 教育課程と学生支援の行動計画

望ましい保育者像や現場の求める保育実践力等の調査などを踏まえながら、卒業認定・学位授与の方針とともに卒業要件や成績評価基準について定期的な点検を進めていく。

子ども子育て新システムなど、新しい保育環境に対しての理解や保護者支援など、保育者に求められる知識、能力も多様で高度化してきている現状について、非常勤講師を含めた全教員会議を通して教員全体の共通認識を深め、指導の充実に努める。

入学者受け入れの方針は、社会の変化に対応した見直しを継続的に行う。

学習の量的評価に関しては、GPA の算出で測定可能であるが、学習成果で求める人間性、社会性などを質的評価について有効な評価方法を検討していく。

昨今の保育業界の人材不足や認定こども園の増加等の影響を受け、幼稚園、保育所からの求人件数は増加している状況の中、2年間のキャリア教育の充実と保育の現場で求められる保育者を常に志向し、学生一人ひとりに適切に対応していく。

◇基準Ⅱについての特記事項

- (1) 以上の基準以外に教育課程と学生支援について努力している事項。

なし

- (2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現（達成）できない事項。

なし